

【「恐怖は人間のIQを下げる」という投資やビジネスで

大変重要な事実について考える】

どうもゆうです！

読者さん、こんばんは！

さて、それで今日は

【「恐怖は人間のIQを下げる」という投資やビジネスで

大変重要な事実について考える】についてです！！

実は投資でもビジネスでもどうもこの「恐怖という感情の克服」

というのは大変重要で、

例えば行動力が異様に高い人って恐怖の部分の克服が大変

進んでる人なんですね。

投資で利益上げてる人というのもこの恐怖の克服が上手い人です。

それで重要なのは逆を言うと

「人間のIQは恐怖を与えると下げることができる」ってことです。

大きく人類はこの点で搾取されてる。

この辺が分かれば自分で稼ぐってのはかなり身近になりますね。



【「恐怖は人間のIQを下げる」という投資やビジネスで

大変重要な事実について考える



さて、今日はズバリ「恐怖」について話したいと思いました。

というのが私が色々な塾とか教材で投資やビジネスを学んだんだけど

未だに「すごい重要だな〜」って思う知識があって

それが「人間のIQは恐怖を感じると劇的に下がる」という知識だったんですね。

これを知ってる人と知らない人ではおそらく雲泥の差があらゆる場面に

において長期的に

できると私の経験上 確信を持って言えます、

だから時々この「恐怖」については書くのだけど

その「恐怖心」とどう向き合っていくか、ていうのがまあ

色々な分野においても大事なわけですね。

例えば最近私が海外にいるから、海外移住についてもよく

メルマガで扱っておりますが

この「見知らぬ言葉も文化も違う海外に引っ越す」ってたぶんだけど

多くの人にとってある種の見知らぬ恐怖みたいのはあるのかも

しれません。

けど実際そこに大きな人生の可能性が眠ってるのも事実ですよ。

私のメルマガが見ている人はそれを感じ取ってくれてるかな？

と思います。

今日なんかもマレーシアの活気ある雰囲気の中

私なんかは生活しているわけです。

(写真) 活気あるマレーシア

<http://fxgod.net/gazou/picture/malaysia/machinokakki3.JPG>

<http://fxgod.net/gazou/picture/malaysia/machinokakki1.JPG>

「少しある恐怖」というものを克服して前に進むと

結構面白い未来があったりするのだけど

恐怖心というのは人の歩みを止めてしまう

可能性を狭めてしまう、恐ろしさがあったり

するわけですね。

あらゆる場面で人間は何かしらの恐怖心を意識せずとも

感じてるものでして、

それがあらゆる行動に制限をかけて可能性を狭めてしまっている

わけです。

ビジネスなんかでは一歩踏み出せばいいのに、

やっぱりなんか潜在的に怖いから

踏み出せないという人が大半なわけです。

(投資やビジネスに限らず、
恋愛なんかもそう。

ナ,,ン..パは普通の人とは1人で
異性に拒否されたりするのが怖くて路上で声かけたりできませんよね？

だから多くの独身者が恋人いないわけです。
カフェやコンビニの気に入った
あの娘に声をかけるということができない。

これを固まってしまうことを揶揄して
「地蔵」と言ったりするんだけど

なぜ人が異性に声をかけるという点で「地蔵」になるか
というと潜在的な恐怖を感じてるから。

これを克服すると誰でも恋人はできるんでしょ)

そして

そこで踏み出している人たちが今

あらゆる分野において果実を得ているわけですね。

また投資においては特にこの「恐怖心」ってのは向き合うことが

大変重要になるけど

例えば「大暴落」とは恐怖ですよ。

そこで「冷静に考えられる人」というごく一部の人は

そこで大衆が狼狽している中で それを冷静な表情で見ながら

仕掛けることができるわけですが

この恐怖に弱い人ってのはまさに狼狽売りをしまったり

もしくはもう恐怖で IQ が急低下してですね

それでFXのようなレバかけた投機ならば損きりは絶対必要だけど

それができなくなってしまうわけです。

どう考えても冷静な時は「レバかかっている投機では損きりしたほうがいい」と

頭では分かっているのに

そっちが「合理的だ」と分かっているのにですね、

すごい非合理的な損きりをしない、という選択を人間の大半は

取ってしまうわけですね。

これは上の（）内に恋愛の、俗的なことを書いてるけど

恋愛でもそうで、恋人作りたならいっぱい異性に道なりで

話しかけて友達作ったほうが良いとわかっているのに

そっちのほうが恋人作るためには合理的だ、と分かってるのに

人間はできない、恐怖に支配されると。

恐怖は人間の IQ を大きく下げるといわれているのだけど

ここで人間は恐怖にやられるとお金も失うし、

稼げなくもなってくるわけです。

また投機ではなくて

現物の長期投資においては

まさに暴落して価格が本来の価値よりも安くなっているとき

逆に買い増しということをしたりしますが

(バリュー投資の考え方)

それがバフェットなんかも言うように投機ではなく投資では合理的行動になるわけですが

そこで長期保有をしないといけないんだけど

ここでやはり暴落なんかが来ると恐怖によってIQが下がって

狼狽売りをしてしまう・・・

ということがあるわけですね。

(※この損きりについての合理的な考え方というのは

現物投資とレバかけてる投機によって変わってきます。

これは私の以前のメルマガで詳しく説明してるから

その違いを理解するのも大事ですね。)

ただ「リスクを最初に限定するのが大事」という点は

投機も投資も共通です

だから多くの儲かっていない原因というのは

「恐怖によって脳みそが

やられてしまってる頻度が高くて合理的判断ができなくなってるから」

といえると思います。

それでこれは一つの違った見方なんだけど

「人間の頭を悪くするためにはどうすればいいだろう??」

ってことなんです。

実は「人間の頭を悪くする方法」というのがありまして

~~~~~

~~~~~

それがその人間を「恐怖で支配する」ってということなんですね。

~~~~~

~~~~~

こういうをテレビは私たちに教えてくれないのだけど

これ大きく事実としてありまして

「恐怖を感じた瞬間に人間の IQ は急降下する」

といわれておりまして、これは

私たちの経験上でも納得できる事実だろうと思います。

何か恐怖が人に襲い掛かると人は冷静な判断というのが

できなくなるわけです。

だからある人間の集団がいたとします。

実験として恐怖を与える100人の被験者

実験として恐怖を与えない100人の被験者

がいたとして

頭が悪くなるのは前者の恐怖を与えられた被験者になる

わけですね。

こういう実験は実際に表に出ているわけではないのだけど

実験しないでも容易に結果は想像できますよね。

ちなみにですが、会社経営者で破綻しやすい社長

ってというのがいるのだけど

これはどういう社長さんだろう？

と考えたことはありますか。

これはよく言われてることでもあるけど

「恐怖」に脳みそが支配されだした社長さんは

大体その後会社を廃業、破産させるなんて言われてます。

それで 大多数の社長の恐怖とは何か、とといいますとですね、

これは世間一般ではやはり代表的なものは

銀行への借金の返済とか資金繰り、です。

大変有能な恐怖耐性がある社長とかはそこでも挽回するんだけど

大多数の社長はそうではありませんから

この借金の恐怖、つてのに取りつかれてしまうと

その社長さんは非常に高い確率で経営判断でミスを犯す

といわれてるわけですね。

そして必然的に倒産する・・・という流れです。

中には心臓に毛が生えている経営者もいますから

いくら借金しても俺は平気だ、と這い上がってくる人も

トランプ大統領のようにいるのですが大多数はそうじゃないので

この恐怖に支配されると合理的な冷静な判断ができなくなるから

やっぱり破産するわけです。

これはFXとか株とか仮想通貨でも同じで

これらの相場の世界で起こる恐怖はやはり

「暴落」だと思いますよね。

その「暴落の恐怖」で脳みそをやられたら大多数の人が

破産、退場するわけですけど

投資と実業の差はあれど、本質的に破産するための

心理的な部分の共通点是一緒なんですね。

これはまた今度書きたいことなんだけど

お金の本質ってなんだろう??

って考えたことがありますかね。

それはこの前の信用経済の話で信用とも言えるだろうし

価値の代替物がお金だ、ということもいえるでしょう。

けどももっとも本質的にお金とは何か、

と考えるとよく言われるのは欲望だ、といわれます。

けどですね、これは「フェラーリ買いたいからお金稼ぎたい」

という人も中にはいるだろうけども

私は東南アジアとかにいてよく分かるのだけど

人類のお金の「本質」はこれ実のところ恐怖なんですよ。

~~~~~

欲望はその次でしょうね。

みんな要するに「お金が無ければ飢え死にする

=生存できない」というのを大きく言葉に出さずとも感覚として

理解してるわけでした

実のところ人類の経済を動かしている重要な感情として

恐怖があるわけです。

「いや、お金の本質は欲望だ」という人もいるかもだけど

それはおそらく誰でも食える、物,乞いがストリートにいない

日本で育った人たちが本質が見えなくなっているだけでして

実際にお金の本質は「恐怖」なんですよ。

これは今のなんとか貧困から這い上がってきている

東南アジアにいると感じてくる点なのですが

結局アジアでもまだストリートに貧困は一部残っていたりして

そこで物乞いの人も時々見るのだけど

じゃあ彼らが欲望で「フェラーリ乗ってキャバで豪遊したい」

と考えてなんとか日銭を稼いでるだろうか？という

私はそれが彼らの行動の本質的原理となってるわけではない

と強く感じるんですね。

おそらくですが「稼がないとその日の生活の食事もままならない」

というこの生存するための生存欲求、もしくはお金がなくなって

飢えることへの恐怖、それが

彼ら、そして人類を動かしてしまっているのだらうと強く感じます。

生存欲求だから大きな意味では欲望なんだけど

その背後にあるのは「金稼げないと子供を餓死させてしまう

自分も飢えてしまう」

というような部分ですよね。

だから必死にアジアの父ちゃん母ちゃんは商売して稼ぐ。

ここには家族への愛情とかそういう人間の共同体的な部分も作用してます。

ただ大きくはお金ってのは本質的に背後に恐怖って感情が

あるだろうと私は分析してます。

だからよく最近「上がり人」という言葉を聞く様になったけど

これは意味としては

「もうお金稼いで人生上がった

**（生存に関する不安なりがなくなった）」**

**みたいなニュアンスが入ってると思うんですね。**

**年金世代の高齢者が時々使う**

**「逃げ切った」とかそういうニュアンスが入ってるわけです。**

**要するに背後に「何かに追われている感情」が作用してる**

**言葉であるわけです。**

**んでこの微妙なニュアンスの言葉の後ろには**

**人類のお金に関する本質が隠れてまして**

**その後ろには「お金がないことに対する恐怖」があって**

**要するにそこからもう逃げ切ったみたいなニュアンスなわけですね。**

金というのはその人間本人や家族の生存と直接に

つながってますから

そこでこの「恐怖」ってのは大事な感情なわけです。

だからお金の本質ってのはこれ欲望もあるだろうけど

それ以上に恐怖、なんですね。

これはお金の本質というのは欲望だ、と

アメリカのマーケターたちが言ってたからみな

それを信じてるけどそのアメリカのマーケターたちも

実のところ本質に気づけていなくて（やはりアメリカも先進国であるから）

実のところお金の本当の本質はこれ恐怖に根ざしているのだ

ということに徐々に人類はいずれ気づきだすだろうと

私は考えてるわけです。

ここが分かると色々分かってくるんだけど

例えば「暴落」で多くの方は「恐怖」を感じるわけだけど

それは「ああ、暴落でフェラーリ買えなくなるよ」

という恐怖ではないと思いませんか？

人間というのは衣食住がお金で満たされているのは知ってるから

実のところお金、含み益がなくなるとか

損失が拡大する

というところで

「生存に関する恐怖」を感じる脳みその構造になっているわけですね。



私も昔利益が安定しない時に、

このような恐怖とどう向き合うかというのを考えたのだけど

ここでどうもお金の本質というのは欲望論は正確ではなくて

実際のところは恐怖なんだろう、ということに

気づいたわけです。

だってお金がなくなると生活できなくなって

メシも食べなくなりますよね？

結局そこにたどり着くと。

もっと言うと政治支配において、どんなに自由がない国でも

大衆の腹が満たされておれば、その政治は安泰なんです。

が、本当に大衆が飢餓に陥って恐怖にさいなまれると

その体制は崩壊するんですね。

私に韓国語を教えてくれた中国の朝鮮族の友人に私が

聞いたことがあります。

「中国の方々みんな、自由はほしくないのですか？」と。

しかし彼女は言いました。

「うーん、今は普通にご飯も十分食べられていて

生活に余裕があるし、だから自由ってのはまあ

なくてもいいかな、なんて考えちゃう」

と言ってました。

だから結局の話日々のメシがちゃんと食える保障があるかどうか

この辺が政治においては重要なんでしょう。

それで投資なんかだと

暴落で人々はカネというのが生存に関わるものだから

そこで暴落による恐怖、に襲われるわけだけど、

そこでIQが低下するわけですね。

逆を言うと、大衆を支配するためには

~~~~~

恐怖を定期的に与えれば支配できてしまう、

~~~~~

ってことでもあるんです。

実のところ相場とか投資の世界ではこの

「大衆 = 一般投資家に恐怖を与えて巻き上げる」

ってということが頻繁にされていて

順調にあげていた相場が急落、暴落して

人々がパニックになって大損するってことが

繰り返されてきてるわけですね、歴史を見ると。

最近でも年末年始のビットコインの暴落ってのはあれは

かなり多くの人々が恐怖で脳みそが支配されたと思います。

そしてレバ利かせてる人なんかは冷静な判断ができず

大多数が退場、大損したと思います。

ただここで「大口」といういわゆる超大金持ちってのが

いるんだけど

彼らは「大衆を恐怖でコントロールできる」ってことも

知ってるんですね。

だからそこで一気に大暴落を仕掛けると人々が

長期保有の人も狼狽売りをしたり

もしくは短期のレバ利かせた人も損きりできず

ロスカットになるのを分かっているわけでした

そこで大口ってのは「大衆に恐怖を与える」ということを

実際に頻繁に仕掛けてくるんですね。

ここが分かっているとやはりいつの日かその人は

退場してしまうことになるわけです。

一方、ここで冷静に恐怖なんかに支配されないで

合理的に振舞える人というのがいて

それがウォーレン・バフェットだったり、ジョージソロスだったり

するわけです。

ジョージソロスなんかは分かりやすいけど

彼は逆に大衆に恐怖を与えるような暴落を

空売りで作り出したというのは有名な話けども

そこで大衆の恐怖を利用してショートで大きな利益を上げる

わけですよ。

それで一方バフェットなんかは大衆がそこで

狼狽売りして

「本来の価値より圧倒的に安くなった株価」で

長期保有でお得な値段で買うわけですね。

だから稼げない人っていうのは脳みそに恐怖耐性

ってのがなくてそれに支配されやすく、

一方圧倒的に稼ぐ人っていうのは脳みそに恐怖耐性が

強くありまして、

そこで心臓に毛が生えてるような感じで

恐怖にものともせず、

立ち向かっていけるわけで、それで稼げる

わけですね。

ちなみにFXなんかだと以前に紹介したダイスケさんなんか

分かりやすいけど

あの方なんか「え、ここで売るのは??」と

相場が大きな急騰を続けてるときに売りを入れますよね。

あの人確かビットコインは去年230万円で

1人で売りをいれていたはずですよ。



これはなかなか普通の人には真似できないわけだけど

あのダイスケさんなんかは恐怖心が麻痺してるというか

もうそれをコントロールできますから、（慣れてるから）

だからそこでふみ上げの恐怖も何も関係なしに

売りいれるわけです。

んで、ハマったらそれが70万円まで暴落して

爆発的な利益になったりするんですね。

要するに儲かる人ってのはこういう大衆の恐怖心を

大きく俯瞰してまして

「恐怖を与えられると人間の脳みそのIQは下がる」

っていう事実を良く知ってましてですね、

それを踏まえて恐怖なんかは合理的行動を支配されずに

淡々と合理的な行動が取れるわけです。

これが儲かる人の特徴、と言えますね。

ビジネスなんかでもそうですよね。あらゆる恐怖とか

リスクってのがあったりするけど

そこで大多数は行動が取れないわけですが

そこで恐怖に脳みそがやられていない人なんかは

どんどんビジネスとか仕掛けてお金持ちになっていく

という循環が見られるわけでした

だからビジネスなんかで稼いでる人なんかは極めて

恐怖耐性が強い人の集まりなんですね。

だから少し頭がぶっとんでるように見えることが多いわけです。

ただ彼らが稼ぐわけです。

それで大衆は恐怖によって IQ が下がるということを

自覚していないわけで

まさに主観で恐怖を捉えて、自然と IQ が下がって

冷静な判断ができなくなって損をしてしまうわけだけど

一方「恐怖によって人間のIQは大きく下がる」と「認知」してる

人はその恐怖を極めて「客観」で捉えられるんですね。

これが重要で、「自分の脳みそが今どういう反応をして

どういう恐怖がこの事象で与えられて

自分のIQを下けているだろう」

と冷静に「自分自身を観察」することができるように

なるわけです。

天才といわれる人はいろいろ環境などの影響があって

10代20代と生きる中で恐怖耐性がついていて

そこで勝負できるわけだけど

普通はそうじゃない。

ただじゃあこの凡人たちは恐怖耐性をもてないのか？

というところでもなくて、

それは練習と自分自身の観察、それを続けると

徐々にそれは克服できるようになってくるんですね。

そこで「人間というのは恐怖によってIQが下がる」

と認識していれば

投資の場面では

「今暴落して自分の脳みその中に恐怖という感情が

出現した。

これが大きく自分のIQを下げる可能性がある。

ということはこれに注意して恐怖に支配されず

合理的な判断ができるように「意識」していこう」

という思考方法が取れるようになるんですね。

これは最初は「意識」するのだけど徐々に「慣れ」

というのが生じてきまして

世間が大暴落とか騒いでる時でも自分は

ノホホーンと冷静に判断ができるようになってくるものです。

そう、全ては「慣れ」だと思います。

それでこの恐怖に対しての「慣れ」を作るってことを

するためには

「人間のIQは恐怖を与えられると低下する」

って「認識」してる必要があると私は思いまして

ここで徐々に恐怖に対峙する練習をしていくとですね

何かあってもびくともしなくなるわけですね。

これが「器うつわ」と呼ばれるものかもしれません。

ちなみに私ゆうも最初は暴落とかもう

すごい恐怖で支配されたのを覚えています

「うわ～～こんなに含み損が！」みたいな感じで

損きりできない時代ってのもあったわけですね。

たださすがに長くやってるともう暴落ってのは

つき物だと分かってくるので

「慣れて」くるわけですね。

んで 恐怖に支配されて IQ が低下してるその時ってのは

もう冷静に合理的判断ができませんから

投機の FX であれば損きりできない、とか

塩漬けになってしまうとかになるわけですけど

だから損大利小になってしまうわけです。



けどそこで「慣れ」ってのが生じてくると

「あ、何度も経験してる暴落だ。

損きりだな」

ということで損きりができるようになってくるわけですね。

人間の「慣れ」ってのはすごいものだと思います。

それで逆に恐怖で脳みそが支配されず IQ が

低下しない状態になったら

「今きつと大衆は阿鼻叫喚で悲鳴をあげて

この暴落に振り回されてるはずだ。

ここでストップがどんどん狩られた後に

買いでエントリーすれば儲かるぞ」

みたいなかなり冷静な判断ができるようになるわけですね。

ちなみに上記「」内の考え方のロジックというのは

相当強いロジックがあって

パニック相場で大衆が刈り取られた後に

利益を出す方法ってのがあったりします。

フィボナッチ使うんですけども。

ヘッジファンドがそういうロジックを取り入れてますね。

だから重要なこととして人間は弱いもので

確かに恐怖を与え続けるとIQが下がる傾向があるのだけど

一方「恐怖は慣れてくる」ってのがああるわけですね。

「恐怖は慣れる」わけですが要するにそれは

「腹が据わってる態度」になるわけです。

ちなみに私の経験だと、よくメルマガに書くのが

私がブラック会社にいたころに

コンプライアンス部っていう警察の天下りの

元右、翼担当の方に真っ白な部屋の中で脅された

というエピソードですが

当時実はもう恐怖という物に慣れていたので

この警察の天下りの人の大声の脅してのは

全然私は響かなかったんですね。

というのがその前に色々危ない経験をしてきたから

やっぱり歌舞伎町とかでバイトしてるときに

ヤバい頬に傷を持つてる人に事務所つれてかれそうになったりとか

変な若い人にナイフで脅されたりとか

あとはクラブのイベントオーガナイズしていたけど

そこでもやっぱり揉め事で変な人に脅されたり

ってのは結構経験してたんです。

んでそこでもうある程度慣れてきたってのがあって

これは面白いことに一般的に言われる

恐怖ってのは慣れてくるわけですね。

だから普通は恐怖で「ブルブルブル」と震え上がるけど

そこでIQが下がらずに次の策、戦略を打って闘えるようになるわけです。

一般の社会でも、ですね。

だから重要なのは、人間のIQってのは

恐怖で下げることができるんだけど

「人間はその恐怖に慣れる」ことができて、

そこで冷静な判断ができるようになる成長性も

兼ね備えているってことなのです。

だから投資なんかでもそうで、最初は暴落で

資金ぶっ飛んでテンパっちゃうっていう経験を

みんなするんだけど

そこで続けてく人は「慣れてくる」わけで

これが究極になるとダイスケさんだったり

ジョージソロスとか、あとは神様投資家である

バフェットに近い投資行動が取れてくるようになる

ってことなんですね。

バフェットなんてちょっと普通の人からしたら

頭がぶっとんでますよね。

だって暴落してみんなが阿鼻叫喚してるような相場があっても

そこで

「おお、本来の価値よりも相当株価が安くなった

買いだ」

と笑いながら立ち向かって買いを入れるのですから。

大衆が阿鼻叫喚の中、バフェットは笑顔で

株を買い付けるわけですけど

あの人は今でこそ投資の神様ですけど

普通に考えたらある意味サイコじゃないでしょうか。

けどやはりそれが彼のすごいところで、ずっと

冷静に合理的な判断を恐怖に支配されずやり続けたところが

バフェットのすごいところで本質だと思いますよね。

それでもう一つ言いますと、

バフェットが生活レベルをあげない理由というのが

あります。

それはお金というのは本質的に恐怖とリンクしているものだけでも

バフェットの場合、

それを良く理解してるのだと思ひまして



だから彼の場合贅沢はしないでチェリーコークばかり

飲んでるわけです。

ただこれは重要な意味があると私は分析しております

すなわちいくら儲かっても損してもバフェットからしたら

それは自分の消費、生存を保障するお金の使い方には

まわっていかないわけですので

究極、儲かっても損しても彼の生活は変わらないわけですから

そうなるたとえば含み益が減ろうが恐怖に支配されませんか？

だって儲かっても損しても自分の生活変わらないのですから。

だからバフェットが億万長者なのに

質素な生活をしているというのは

こういう心理面での重要な考え方があると思ひまして

彼の生活スタイルだといくら損しても得しても

生活レベルが変わらないから、

そこで恐怖もしくは欲望に支配されることがなくなる

わけですね。

なので極めて合理的な投資行動を継続できちゃうって

カラクリですよ。

だからバフェットがチェリーコークばかり飲んで

毎日ハンバーガー食べているってのは

投資の心理学を知っていると結構合理的であると

分かります。

実は投資心理学などで計算された上での質素なわけですね。

そんな生活してたらそもそもある程度の金額さえあれば

飢え死にしませんし、

恐怖に支配されないのですから。

一方、ここで散財がすごい場合だと

とにかく稼ぐ金額を保たないといけないから

そこで「なんとか稼がないと」と追い込まれるわけでした

ここで暴落が来ようものなら一気にその人の

脳みそは恐怖で支配されてしまって

IQが下がってしまうわけですね。

そして普段取らないような非合理的な行動を取ってしまって

大損してしまうわけです。

なので、私たちが知るべきことは

「人間は恐怖で支配されるとIQが下がる」

ということにして、これを認識するのは大事だと思ひまして、

同時に

「その恐怖はトレーニング次第で克服ができるようになって

そのあと、恐怖なんかが恐怖じゃなくなって

その時に冷静な判断を取れるようになる」

ってことですね。

動物世界では恐怖という感情は生きるために必要なもので

ライオンの群れに恐怖を感じないで

立ち向かったら死んでしまいます。

だから恐怖は人類の生存を守ってきたのも事実なんだけど

一方現代の人類というのは為政者によって極めて

恐怖で支配されることが増えてきましたので

この恐怖に慣れて、その上で冷静に考えることができる

ってのはとても大事なことになってきているわけですね。

なので何か稼げないとか、暴落して損してるとか

何かしらの、一般的に見たら大変な状況というのが

ビジネスや投資だと あるあるだと思うんですが

ここで自分を内省して「自分の脳みそは恐怖によって

IQが下がっていないか」と自省して

自分の脳みそと会話していくというプロセスは成長のために

とても大事です。

この自分との会話をしていくと、

徐々に恐怖感情などに支配されずに合理的な行動を

積み重ねられるようになるので、器がついてくるので、

利益がついてくるようになる、ってことですね。

これが本当の本当の本質かな??

って思います。

なので恐怖は人間のIQを下げるのだけど

その恐怖感情というのは実際の話コントロールできるものですから

こういうのを知識として知っておくと良いと思います。

昔のインフォ教材というのは怪しいものが多かったけど

上記のようなことを教えてくれる教材も結構あって

私は当時すごいそういうのに学んで今につながっていると

思いましたので

一応メルマガで共有しました。

どんな大変な状況が人生にあっても

恐怖に支配されず、脳みそを回転させて合理的に判断して

その判断を継続できるようにしたいものですね。

それではまた！

ゆう



追伸・・・ちなみに、逆の仕掛ける側の見かたとして

大衆の頭を悪くさせるためには

恐怖を与えるとIQ下げられるのですから

「恐怖を与えれば大衆支配ができる」

という冷酷な政治支配の考え方が

あるんですね。

ショックドクトリンといいます。これは

大衆に地震とか津波とかあとは戦争リスクをあおることを

するのだけど

そこで恐怖の中に大衆を引き込んで判断力を低下させて

社会体制を一気に為政者の都合の良いように変革してしまおう

という支配戦略です。

これをショックドクトリンといいます。

実のところ日本ではこれが社会実験のように頻繁に

行われてる、と気づく人は気づくでしょう。

官僚たちがおそらく米軍の洗脳手法を教わって実行してるでしょう。

また私がいたブラック会社もそうでしたが明確に役員たちが

「従業員に恐怖を与えて支配せよ」ということを

やっていました。

だから役員の下属たちに「従業員を怒鳴りつけろ」とか

実際に指示してたりしたんですよ。

ここで従業員を恐怖で支配して、IQ 下げて支配する

ということを私がいた会社はやってた。

んでブラック会社では恐怖というのが社内に充満してるから

社畜状態の人が増えるわけでここで反旗を翻せる人は

いなくなるわけです。

ちなみに、私のいたブラック会社は元祖ブラックだったんですが

他の会社にもこの会社統治方法を経営者たちにコンサルしてる

って話も以前聞きました。

だから今日本のブラック会社といわれるところでは

恐怖を与えて従業員コントロールするっていうのが良く

行われてるはずなんだけど

これは上記ショックドクトリンの政治支配の考え方を

会社の統治に用いたものであります。

これを意図的に行ってる人たちというのが日本でもいる

わけですね。

ただ最近はそれを人々に見破られだしている。

そう、そろそろ大衆も気づいて覚醒する時期で

いつまでも支配されてばかりじゃいけないとなってきた。

ちなみに日本の場合は最近はもう北朝鮮ミサイルだ

地震だなんだ、とやりすぎてしまって

大衆がまさに上に書いたような恐怖に「慣れ」てきてます。

地震が来たくらいでみんなもう「予行練習」は沢山

してきたから この数年でちょっと免疫がついて

うろたえなくなって来た。

良いことだと思います。

それで冷静に考える人が増えてきたわけで

こうやって恐怖でびくともしない民衆が増えてれば

日本も少しは変わってくるかもしれませんね。

追伸 2 . . . それでこの恐怖感情というのが

実のところ「行動力が出ない」という人の本質的な部分に

ある、と気づくと思います。

だから「やればいいのにできない」とかそういう人が

世の中多いわけですね。

それはめんどくさいという感情もあったりするんだけど

もし自分がこう行動するべきと分かってるのに行動できない場合、

自分の中でどういう感情が発生していて

それがどうやって足かせになってるか??

つていうのを徹底的に自己分析するといいいですね。

この自己分析は就職活動のような空虚な

「私はリーダーシップがあり、協調性があり～」みたいな

自己分析じゃなくて

本質的な自己の感情に対する分析ですね。

そうすると自分の感情が自分の行動にどういう影響を与えてるか

というのを「客観視」できるようになるわけで

ここで「自分にとって合理的な行動」が取れるようになってくるので

あらゆる分野で自分の思ったとおりの状況にはなってくるんです。

それでここで重要なトレーニング方法というのはありまして

それは例えば投資で言えば「普段から暴落が来た時に自分が

どういう行動を取るかイメージトレーニングする」

ってのはあります。

これをやっていると、徐々にそのイメージトレーニングの通りに

そのとき行動できるようになってくるのですね。

それは「脳内でイメージしたとおりに人は行動していくようになる」

という原理があるからなんだけど。

だからスーパーエリートの富裕層たちや為政者なんかが仕掛ける

恐怖で支配されないためにイメージトレーニングを積み重ねておくと



さらに強くなるかと思われます。

それは最終的に人生を切り開く原動力になりますね。

それでは！